



平成24年度 都市景観大賞

「都市空間部門」受賞地区の概要

及び

「景観教育・普及啓発部門」受賞団体の活動の概要

「都市空間部門」

受賞地区一覧

「大賞」(国土交通大臣賞)

地区名	地区面積	応募者
<small>じゅうがおか</small> 自由が丘地区 (東京都目黒区)	約 24 ha	<ul style="list-style-type: none"> 株式会社 ジェイ・スピリット 自由が丘商店街振興組合
<small>こうようえんめがみやま</small> 甲陽園目神山地区 (兵庫県西宮市)	約 44.1 ha	<ul style="list-style-type: none"> 甲陽園目神山地区まちづくり協議会 西宮市
<small>ふきや</small> 吹屋地区 (岡山県高梁市)	約 7.2 ha	<ul style="list-style-type: none"> 吹屋町並保存会 高梁市

「優秀賞」(財団法人 都市づくりパブリックデザインセンター理事長賞)

地区名	地区面積	応募者
<small>そうせいかわどおり たぬきにじょうひろば</small> 創成川通・狸二条広場地区 (北海道札幌市中央地区)	約 8.0 ha	<ul style="list-style-type: none"> 札幌市 狸二条広場運営協議会 財団法人 札幌市公園緑化協会
<small>えちぜんしよんちよう ごか</small> 越前市四町地区・五箇地区 (福井県越前市)	約 20 ha (四町地区) 約 114 ha (五箇地区)	<ul style="list-style-type: none"> 越前市 四町まちづくり協議会 五箇地区まちづくり協議会 社団法人 福井県建築士会
<small>はかたえき えきまえどおり</small> 博多駅・はかた駅前通り地区 (福岡県福岡市)	約 17.8 ha	<ul style="list-style-type: none"> 福岡市 九州旅客鉄道株式会社 博多まちづくり推進協議会
<small>かなわおんせん</small> 鉄輪温泉地区 (大分県別府市)	約 24.2 ha	<ul style="list-style-type: none"> 特定非営利活動法人 鉄輪温泉共栄会 別府市

「特別賞」(財団法人 都市づくりパブリックデザインセンター理事長賞)

地区名	地区面積	応募者
<small>なか ちい さとやま やひこせん</small> まちの中の小さな里山 (JR弥彦線 <small>こうかわき</small> 高架脇ポケットパーク) 地区 (新潟県三条市)	約 0.7 ha	<ul style="list-style-type: none"> ポケットパーク整備実行委員会 新潟大学大学院自然科学研究科西村伸也研究室 花と笑顔を育てる会 三条市

総評（審査委員長：陣内秀信）

社会の成熟とともに、個性的な魅力ある街づくりがより進み、都市景観への取り組みにも、今年度はさらに多彩な考えや方法が見られた。眠っていた伝統的町並みの価値を発見し磨きをかける地区、起伏と緑のランドスケープを演出する住宅地、都心部に象徴的な景観を生む公的インフラ整備、逆に小街路群の細やかなデザイン誘導で回遊性の魅力を生むまち、都心の空洞化した土地へのアートの導入、地場の産業・経済活動をモチーフとする景観づくり等、これまで以上に多様な応募があった。

大賞を受賞した3件は、現在の日本の景観づくりの先端を示す優れた成果である。岡山県高梁市の「吹屋地区」は、全国でも8番目という重要伝統的建造物群保存地区の個性をさらに育て、歴史的空間に息吹を与えつつ、山間部に溶け込む石州瓦の見事な赤い町並みを形成しており、その持続的努力が高く評価された。

西宮市の「甲陽園目神山地区」は、山麓の南斜面の豊かな自然環境をもつ住宅地の特性を最大限に育て、自主ルールである「みどりのガイドライン」を設けて、自然と共生するコミュニティの景観を見事に創り上げている。

東京都目黒区の「自由が丘地区」は、商店街、周辺住民、専門家が集まった街づくり会社を中心に、既存の小スケールの街路、路地を街並み形成指針に基づきデザイン誘導し、回遊性のある魅力的な境界を生んだ。景観づくりの新たなチャレンジとして高い評価を得た。

優秀賞のうち、駅舎から駅前通りの象徴的な空間軸に官民が一体となって魅力ある都市景観を創造した福岡市の博多地区、アンダーパスの実現で地上の車を減らし都心に快適な水辺空間を生み出した札幌市の創成川通りは、景観を重視した大スケールの公共空間づくりが日本でも可能なことを示し、今年の収穫となった。一方、湯けむりを核に景観づくりに取り込むユニークな別府氏の鉄輪温泉地区、高架鉄道下に小さな里山をつくる卓抜な構想と実践で特別賞を得た三条市の取り組みも、景観形成の多様な展開を象徴する成果で、こうした事例が切掛けとなり、さらに都市景観大賞の応募にバラエティが増していくことが期待される。

「大賞」(国土交通大臣賞)

- 地区名：自由が丘地区
- 面積：約 24ha
- 所在地：東京都目黒区
- 応募者：株式会社 ジェイ・スピリット／自由が丘商店街振興組合

■ 地区の概要：

当地区は、東京都目黒区の南端に位置し、東急東横線、大井町線が交差する自由が丘駅を中心に面的な商業集積がひろがり、周囲は低層の住宅地となっている地区である。様々な表情を持つ路地空間に路面店やテラス型の店舗が連なり、歩いて楽しい界隈となっているが、来街者の多さに対して道路が狭く歩行環境の改善が求められていた。

長年にわたり、官民一体になって道路、緑道、駅前広場の改善整備をすすめ、あわせて地区ごとに街並みルールを定め、拡充、改訂に取り組んできている。それにより、駅前広場や南口緑道は、来街者の憩いの場となり、イベント時の会場にも使われている。また、路地状の通りも限られた空間の中で個々の通りの表情を活かした歩きやすい環境づくりに継続的に取り組み、商店街振興組合や住民団体、地元大学の協力により、独自の巡回やクリーン活動、緑化など、まちの安全確保、美化にも努めている。

これらを一体のまちづくりにつなぐため、まちづくり会社を中心となって、取り組みの調整や街並み形成指針の運用を進めており、結果、歩いて楽しい街としての評価は定着し、街に開かれた店舗開発も増えてきている。

■ 審査講評：

東急沿線のお洒落な街として人気の高い自由が丘。その成功の背景に、しっかりした街づくりの継続的な努力の集積があることに驚かされた。70年代からの商店街振興組合による街づくりの取り組みをベースに、10年前からは、加盟商店街に住民も加わって街づくり会社をつくり、その下にできた街並み形成委員会の面々が奮闘し、民の力を結集してユニークな景観まちづくりに取り組んでいるのである。行政もそれに歩調を揃え、企業が応援を惜しまない。

大改造の手段は一切なく、様々な表情をもつ既存の狭い街路、路地など、その小さな空間の特徴を活かしながら丁寧に誘導、整備し、デザインし直すことで、歩いて楽しい回遊性のある都市空間と、変化に富んだ魅力的景観をつくり上げている。都心の商業空間でありながら心地よい生活感があり、随所に緑とベンチを配して、ゆっくりした時の感覚を楽しめる人々にとっての居場所を生んでいる。従来にない景観づくりの新しい領域を切り開いてきた自由が丘が獲得した質の高い都市空間の集積は、新時代の景観大賞にふさわしいものである。(陣内)



歩行空間を広げてパリアフリー化をはかった駅前広場。シンボルである女神像は移設し、広場内に設置している。



南口緑道(九品仏川緑道)。自転車を追いつすベンチ配置実験から広場化に至った。現在は、集い・憩いの場として多くの方に利用されている。また、通りに開く店舗構えが増えてきている。



サンセットエリア。環境整備に合わせ街並み誘導型地区計画やまちづくり協定を定めている。



ブルバール街。1階後退部分と道路をまたぎ官民一体の歩道空間を確保している。

- 地区名：甲陽園目神山地区
- 面積：約 44.1ha
- 所在地：兵庫県西宮市
- 応募者：甲陽園目神山地区まちづくり協議会／西宮市

■ 地区の概要：

当地区は阪急甲陽線の甲陽園駅の北方、六甲山麓の南斜面に位置する戦後の区画整理によって生まれた住宅地である。六甲山麓の自然地形を生かした宅地造成、地区計画による用途制限（戸建て住宅）により、低層の落ち着いた建物群に加え、緑にとけ込む住宅地のまちなみが形成されている地区である。しかし、近年は宅地細分化の進行に伴い、自然植生の伐採等により、これまで築いてきた良好な住環境の悪化が懸念されていた。

こうしたことから、地区住民が主体となるまちづくり協議会が設立され、既存樹木の保全、通りから見える緑量の一定確保、敷地境界の緑配置を基本方針とした自主ルール「みどりのガイドライン」を定め、自主的に建築主と協議を行う活動が行われている。また、一定の規制力を持たせて地区の景観保全を担保するため、市は、景観条例に基づく景観重点地区の指定を行った。指定後も、自主的な協議や景観パトロールなどの活動を継続させる等、地域住民が自らみどり豊かなまちなみを守っていく意識を持った積極的な活動に支えられ、みどりと融合した美しいまちなみが維持・形成されている。

■ 審査講評：

当地区の住宅地開発では、大正時代からの歴史、昭和 30 年代の区画整理による敷地規模や用途の限定、風致地区、保安林、水辺の存在、現在に至る景観の基礎となる石井修氏の設計による複数の住宅、地区計画の決定、景観重点地区に設定と緑視率の導入、これらすべての内容が、現在の甲陽園の景観を形成、継承してきた要因である。

特に、特筆すべきことは、地区独自の「まちづくり憲章」と石井氏の住宅設計と緑の関係を詳細に示した「緑のガイドライン」と、それを見守る協議会にある。この地区に新しく設計する施主と設計者は、図面や模型を持参して、協議会の会員の前で設計内容を説明し、時には数回となる、その協議過程でガイドラインに沿うように多様な要望が出される。それらの内容は、必ずしも強制ではないが、住民の熱意と周囲の住宅のかもし出す独特の品性が、施主と建築家に、甲陽園の風格にあった質の高い景観を形成する住宅と緑地を設計しなくてはいけないという意識を醸成する。一連の住宅の多くに共通することは、地形の改変を最低限に留め、緑化によって形態を見えなくすること。そのため、住宅は敷地の地形を丁寧に読みとり、奥まった場所にひっそりと配置される。住宅へのアプローチは敷地形状に合わせて、人のみが通るヒューマンスケールな空間とし、擁壁は敷地から産出する花崗岩により、自然風に作られる。

さらに、工事にあたっては、環境を担保する「みどりの保証金預かり制度」により協議会は、施主と協定書を結び、30 万円を預かる。施工後、ガイドラインに従った工事がおこなわれれば、全額返還されるが、そうでない場合には、この預かり金で緑化など協議会による運用ができる規定となっている。米国では沿道景観の緑は、住宅地の不動産価値を形成するものとしてみなされ罰則規定があるところが多いが、日本でその実践をしているところはほとんどない。初期の設計思想が住む人を選び、そして思想を継承することでより魅力あるまちと品格のあるコミュニティを持続させていることから、都市景観大賞「国土交通大臣賞」にふさわしい。（池邊）



六甲山の山並みと連続する、自然地形を生かした緑豊かな住宅地。



緑に囲まれた 12 番坂。「目神山」の代表的な空間となっている。



擁壁は自然石仕上げとし、建物のシルエットを目立たないよう、道路際には植栽が多く配置され、建物が緑に溶け込む。



協議会では、景観重点地区の基準検討のためまちあるきを行った。その他、景観上問題のある行為がないかのパトロールを定期的に行っている。

- 地区名：吹屋地区
- 面積：約 7.2ha
- 所在地：岡山県高梁市
- 応募者：吹屋町並保存会／高梁市

■ 地区の概要：

当地区は高梁市 JR 伯備線の備中高梁駅から車で 40 分ほど北西へ走った吉備高原（標高 500m）に位置する。江戸時代から続く町家集落で、特に江戸時代後期から銅とベンガラで栄えた地区である。昭和 40 年代に銅山とベンガラ生産の衰退と交通の不便さと伴に、ベンガラ豪商などの家屋は荒れ放題で倒壊寸前のももあった。

しかし、地域住民が町並みの歴史文化的価値に気づき、昭和 49 年県の「ふるさと村」に指定されたことを契機に、旧成羽町と住民が一丸となって観光地としての再生を始めた。3 年後には国の重要伝統的建造物群保存地区に選定され、昭和 53 年に設立された吹屋町並保存会の協力を得て、これまで継続して町家の保存や修景、大規模建築物の規制等の様々な取り組みが進められている。

その結果、重伝建地区の吹屋往来 1.5km には、かつての繁栄を偲ぶ町並みが周囲の山並みとともによみがえり地域の伝統と自然がミックスした地域独特の歴史的景観を形成している。また、この町並みを活用して、市民協働による多彩なイベント開催や維持管理が行われており、地区に訪れる観光客も増加傾向にあり、全国に「銅とベンガラの町吹屋」が認知されてきている。

■ 審査講評：

江戸初期からの銅並びに後期からのベンガラの産出と精製によって栄えた山間の街は昭和後半になると産業の衰退に起因する人口、流通の激減を招き、かつての栄華はもとより家並みの存続さえも危うい状況が続いていた。残された住民は行政とともに保存活動を開始し、旧街道を中心とした街並の修復と保存を地道に続けてきた。その活動が功を奏し、重要伝統的建造物群保存地区の指定を受け、その後の街並保存の礎を築くことになる。

深い緑に四方を囲まれた歴史的建造物の一群は美しい。煙出し屋根を持つ石州瓦の家並み。ベンガラ格子、ベンガラ壁は赤みを帯びた独特の外観を有し、時折見られる焼板や白壁とのコントラストも心地よい景観となっている。このようなハード面での継続的な景観整備に加え、手作りの観光案内の工夫や古民家活用などソフト面での工夫がおもてなしの街づくりとなって表れている。また、かつての産業を活かしたベンガラ灯りの活動は地域住民とともに近郊の高校生と協同して継続的に開催するなど世代を越えた地域活動を根付かせるきっかけにもなっている。これらの多面的な取り組みはこの 3 月に最後の卒業生を送り出し現役としての役割を終えた小学校の今後の活用で反映されるものと期待が膨らむ。このような官民の力強い協力と世代を越えた連係が過去の遺産を次代へ繋いでいく大きな原動力となっている。（富田）



山間に忽然と現れる赤褐色の焼き色斑が美しく映える石州瓦の屋根が連なるベンガラ豪商の町並み。



電柱のセットバックによって景観向上が図られたベンガラ豪商の堂々とした建物が連なる町並み。ボランティアガイドによる案内も行われている。



明治 42 年に吉岡鉱山の本部跡地に建設された吹屋小学校本館。平成 23 年度末で閉校となるため、今後、活用方法を検討する。



周囲の町並みに合わせて修景したベンガラ格子の吹屋郵便局

「優秀賞」(財団法人 都市づくりパブリックデザインセンター理事長賞)

■ 地区名：創成川通・狸二条広場地区

■ 面積：約 8.0ha

■ 所在地：北海道札幌市中央区

■ 応募者：札幌市／狸二条広場運営協議会／財団法人 札幌市公園緑化協会

■ 地区の概要：

当地区は、札幌の都心に位置し、地区の中心を流れる創成川は、札幌市において、開拓のための灌漑用水、水運といった産業を支える役割を担った歴史的遺産であると共に、シンボリックな南北都市軸である。しかし、創成川通は、主要道路として交通混雑が見られ、東西市街地の分断要素となっていた。

創成川通の2つのアンダーパス連続化によって、交通問題の解消と共に、地上空間において、歴史的景観の保全と憩いの場としての公共空間の再生を果たした。新たに創出された「創成川公園」は、都心における自然要素として貴重な水と緑を活かした、安らぎと憩いの親水緑地空間として整備された。公園内にはアートワークを設置し、札幌の都心に芸術性の高い空間を新たに創出している。

また、創成川によって東西に隔てられていた地元商店街や町内会が連携され、地域の魅力を向上させる動きが新たに生まれており、公園内に整備した交流空間「狸二条広場」では、秋まつりやビアガーデンなどの四季に応じたイベントが開催され、札幌の都心部に新たなにぎわいを創出している。

■ 審査講評：

この計画の特徴は、アンダーパスの連続化という都市内車両交通のネットワーク改善を図りつつ、併せて良質な歩行者空間ネットワークを達成したことである。整備前の創成川沿いの並木が伐採されたことは大変残念であるが、関係者による全数保存に大きな努力を払われた末の、苦渋の決断であったことは理解出来る。その緑量は豊かであったが、歩行者がアクセスすることはできず、橋を横断する時に垣間見るだけのものであった。むしろ、札幌市の東部を分断する壁となっていた存在を取り除き、東西南北のネットワークを作った価値は大きい。緑に関しては、今後の育成を待ちたいと思う。

また、その整備空間は、精度の高いデザインが細部にわたり行き届いており、同種の景観デザインのモデルとなるに相応しいと考える。今後、周辺の街並みや、都市内の歩行者空間がより深い連関を持ち、都市総体として成長していくことを期待したい。(田中)



アンダーパスの連続化と地上部の親水緑地整備により生まれ変わった創成川通。



創成川通の地上空間。南北につながり、東西に視線が抜ける中高木を植栽している。



札幌の都心部の新たな顔となる狸二条公園では、親水空間と一体となった様々なイベントが開催されている。



狸二条広場南側の親水空間。水量の調節により、緩やかに川が流れる親水空間を実現した。

■ 地区名：越前市四町地区・五箇地区

■ 面積：約 20ha（四町地区）／約 114ha（五箇地区）

■ 所在地：福井県越前市

■ 応募者：越前市／四町まちづくり協議会／五箇地区まちづくり協議会／社団法人 福井県建築士会

■ 地区の概要：

四町地区は、越前市のほぼ中央に位置し、古くから越前の国府として栄えた歴史ある地区である。これまで戦災も震災も受けておらず、歴史を物語る歴史文化資源が数多く見られ、地域独特の景観を有している。とりわけ、江戸時代後期から木工技術を持った職人が住み、明治中期頃に成立したといわれるタンス町通りには、伝統的な町屋様式の家具店や建具店が多く軒を連ね、現在も商売を行っている。

五箇地区は、日本一の手漉き技術を誇る和紙産業とともに発展してきた街で、現在でも多くの手漉き工場が区内で操業している。また、多くの神社仏閣が立地するなど深い歴史性を持つ街であり、地域固有の歴史・伝統・文化・産業を背景として、良好な風土が今なお残る地区である。

両地区では地域に根ざした沿道景観の整備を進めると共に、地区内の回遊ルートでは、住民同士が景観協定（紳士協定）を締結し、住民主体の景観づくりが行われている。また、まちづくり協議会と地域住民が主体となって、定期的にイベントを実施する等、住民自ら街並みを維持、活用する取り組みが行われており、生活文化の質の向上に寄与している。

■ 審査講評：

四町地区を含む中心市街地（旧武生市）は、奈良時代に国府が置かれたため、1300年近く越前地方の中心として栄えた。戦災も震災も受けていないことから、町家や蔵、路地、寺社群等の歴史的文化遺産が多く残っている。しかし人口減少や高齢化が進む中で、四町まちづくり協議会は通りごとの道路整備と共に景観協定を締結し、賑わいづくりに努めており、特に「タンス通り」界隈は魅力的な景観を形成している。

五箇地区（旧今立町）は、日本を代表する越前和紙の産業と文化の拠点である。五箇まちづくり協議会は、地区毎にシンボルロードの景観舗装や水路整備、和紙産業に関わる建物の修復や保全による景観協定の締結等、「神と紙の里づくり」に熱心に取り組んでいる。

この両地区の景観まちづくりは、今年度「都市景観大賞」（景観教育・普及啓発部門）の大賞を受賞した福井県建築士会南越支部の積極的な支援活動と連携しながら、先駆的な取り組みをしていることから、優秀賞として高く評価できる。（卯月）



四町地区のタンス町通りの街並み。建具店や指物店なども軒を連ねている。



四町地区で毎年秋に開催されるタンス町屋台祭りが開催されている。



五箇地区の秋葉山からの眺望。越前瓦を使った街並みが印象的である。



五箇地区 岩本町の街並み。美しい日本の歴史的風土 100 選に選ばれた。

■ 地区名：博多駅・はかた駅前通り地区

■ 面積：約 17.8ha

■ 所在地：福岡県福岡市

■ 応募者：福岡市／九州旅客鉄道株式会社／博多まちづくり推進協議会

■ 地区の概要：

当地区は、「博多駅」及び博多駅と都心部天神地区とを結ぶ「はかた駅前通り」の区域である。従前の駅周辺は、自動車交通が中心であり、また、駅と通りの繋がりも薄く、陸の玄関口としての賑わいに欠けていた。H23年の九州新幹線全線開業を契機に、新博多駅ビルの建て替えのほか、行政と関係事業者の共働で、駅前広場などの公共空間の整備が行われ、交通結節点としてだけでなく、賑いや交流の拠点として生まれ変わり、福岡市の新たなランドマークとなっている。また、はかた駅前通りでは、駅前広場から連続する並木や歩道照明の整備などにより、駅とまちとのつながりを強め、回遊性が高まっている。

こうした整備に加え、地域においても、駅周辺の企業や自治協議会等を中心に、エリアマネジメント組織が立ち上がり、景観形成プランの策定など景観に対する取り組みが進むとともに、官民共働でイベントなどが行われなど、駅からまちへと連続的な賑わいや交流が生まれてきている。今後は、都市景観形成地区による建物等の誘導などにより、さらに、通りとしての魅力的な景観の形成が期待される地区である。

■ 審査講評：

九州新幹線の全線開業を契機として取り組まれた「博多駅博多口駅前広場」の再整備とそれに続く「はかた駅前通り」の環境整備によって、福岡の玄関口にふさわしい、賑わいと憩いを兼ね備えた魅力的な空間が出来上がっている。また、空間全体の構成が基本的に歩行者の流れを意識したものとなっていることも好印象を与えている。

加えて、周辺の 143 会員からなるエリアマネジメント組織「博多まちづくり推進協議会」が中心となって「博多まちづくりのガイドライン」や「はかた駅前通り景観形成プラン」を策定し、市が同区域を景観形成区域に指定する、加えて JR 九州も含めて様々な組織がイベントや植栽の管理などに参加するなど、官民協働の取り組みを積極的に行っている点も高く評価される。

駅前広場、駅前通りとも再整備されてからまだあまり日を経っていないが、今後とも継続的な取り組みがより積極的に行われること、そしてこうした取り組みが天神地区の活動と一体となって相乗的な効果をもたらすことを期待したい。

(岸井)



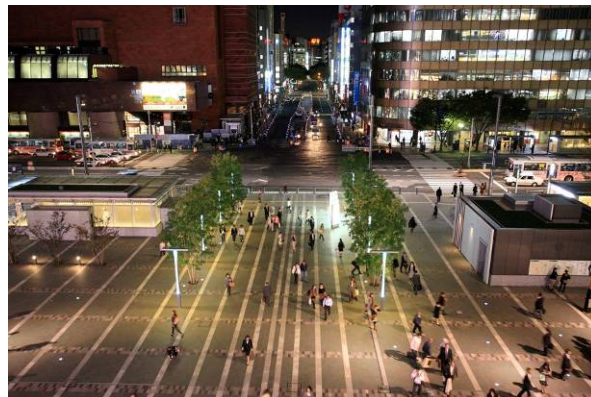
新しく生まれ変わった新博多駅ビルと博多口駅前広場。本市の新たなランドマークとなっている。



新博多駅ビル。縦格子のファサードに、通りからのビスタを意識したガラスカーテンウォールや大屋根がシンボリックな景観を形成。広場空間はイベントの実施等、賑わい・交流の核となっている。



コンコース正面の緑陰広場。自然と調和したまちを象徴し、憩いや潤いを与えている。



駅からはかた駅前通りを臨む。演出を兼ねた歩道照明などが通りへと連続している。

■ 地区名：鉄輪温泉地区

■ 面積：約 24.2ha

■ 所在地：大分県別府市

■ 応募者：特定非営利活動法人 鉄輪温泉共栄会／別府市

■ 地区の概要：

当地区は別府市市街地の北西に位置し、鎌倉時代より湯治場として栄えた地区である。近年、交通事情の変化、旅行形態の変化等により観光客数の減少傾向が続いており、良好な景観が失われていくことが危惧されていた。

そこで、地元住民と別府市の協働で湯治場の雰囲気のある温泉街を目指した景観形成の取組みを進めており、平成 17 年度以降道路の石畳化とその付帯施設（街路灯・情報板）、公園、温泉施設、観光交流センター、駐車場等の整備を行った。施設整備が進むにつれ住民や商業者の景観まちづくりへの意識も高まり、平成 20 年度「鉄輪温泉地区温泉湯けむり重点景観計画」を策定、遠景の湯けむり景観を守るための建築物の高さ制限を指定する等、地域独自の規制方法に取り組んでいる。

このような取組みは、地元住民の活動に結びつき、鉄輪温泉共栄会を中心とした施設の維持管理やイベントの開催など観光振興に寄与する取組みが積極的になされ、更なる地域の魅力づくりが進められている。その結果、観光地としての魅力アップが図られつつあり鉄輪温泉地区を訪れる観光客数も上記の整備事業実施以降、増加傾向を示すようになっている。

■ 審査講評：

別府八景の一つとして鎌倉時代から湯治場として栄えてきた「鉄輪温泉」は豊富な温泉に恵まれ、「湯けむり」が数多く立ち上る独特の景観を呈している。地元の 20 団体 46 名で構成された「NPO 法人鉄輪温泉共存会」は、観光客の減少に対して、「鉄輪温泉地区まるごと再生」に着手し、「鉄輪むし湯観光交流センター」や「地獄蒸し工房鉄輪」の運営管理をすると共に、お祭りの開催、鉄輪湯けむり散歩マップ、花壇の植え替え等、様々な景観まちづくりを積極的に実践している。

また、鉄輪温泉地区の街かどから立ち上る湯けむりは、温泉の噴気で食材を蒸す「地獄蒸し」の役割を果たすと共に、眺望景観のシンボルとして背後の山々と相まって季節や時間により様々に変化する魅力的な景観要素となっている。この湯けむりを生かした「温泉街の風情を残した近景」と「周囲の自然と調和した遠景」を保全するために、建物の高さ規制をした「鉄輪温泉地区温泉湯けむり重点景観計画」は、極めて個性的であり、優秀賞として高く評価できる。（卯月）



市街地北西部に位置する古からの温泉街。背後の緑が湯けむりを引き立たせている。



石畳化された「いでゆ坂」。旅館、貸間、共同浴場が連なる温泉街のメインストリート。昔ながらの温泉街の雰囲気が残っている。



リニューアルされた「鉄輪むし湯」。広場ではフリーマーケットなどが開催され、地元住民と観光客の新たな交流の場となっている。



鉄輪温泉共栄会が中心となって開催する鉄輪湯あみ祭。稚児行列がおる いでゆ坂は、景観に配慮した建物が増えている。

「特別賞」(財団法人 都市づくりパブリックデザインセンター理事長賞)

■地区名：まちの中の小さな里山（JR弥彦線高架脇ポケットパーク）地区

■面積：約0.7ha

■所在地：新潟県三条市

■応募者：ポケットパーク整備実行委員会／新潟大学大学院自然科学研究科西村伸也研究室／花と笑顔を育てる会／三条市

■地区の概要：

当地区には、江戸期城下町や宿場町の風情が漂う町並みや寺社等の歴史的市街地であるが、急速に少子高齢化が進み、再開発等による新参住民との新たなコミュニティ構築が求められていた。一方、JR 弥彦線高架化（平成7年）に伴い整備された緑道脇に点在する11か所の残地の活用や維持管理不足が課題となっていた。

これらより、平成19年度に周辺住民を中心に、大学、市が協働し、自らの身近な環境に自らの手でうるおいと安らぎのある緑空間を形成する「ポケットパーク整備実行委員会」が結成された。以降、毎年一箇所ずつ、地域が大切にしている一つの里山の緑を移植して、まちの中に小さな里山をつくる活動がスタートした。まちの中にいながら里山の木々の成長、季節の変化を実感できる小さな里山の緑は、地域住民と学生によって育まれている。また本活動は、緑を里山に求め、作業をすべてボランティアで行い、低予算で毎年続けてられており、地場の材料（伝統和釘など）や技術（造園や建設技術）を積極的に活用し、子どもたちの参加も大切にしながら活動している。

■審査講評：

まことに小さな空間である。整備に要した費用も、他の受賞作に比すればほとんどゼロに近い。しかし、いやそれ故に、ここでの試みはまちの風景を変えていく手法として顕彰に値し、応援したい。ただの残地で使い道がなさそうな公共用地は、まちの随所にある。それらをポケットパークとして行政が整備すれば、お定まりのベンチを置き、見積もり可能な園芸品種の緑が管理しやすい形に植えられる。そうではなく、少し離れてはいるが風土としてはつながっている里山の木々や草をそこに移植し、単なるビオトープではない都市的洗練を経たデザインに仕上げていく。そのプロセスには、大学と住民と地元企業とが知恵と労働力を提供する。その成果は、まず生き生きとした緑の景としてまちを彩る。次いでその緑の世話を通して人々を結びつける。さらには、ここから直接は見えないけれどたとえば橋の上から遠望したときに見たまちを包む緑の丘、あるいは四季折々の恵みをもとめて分け入ったあの林、そういう記憶の中の里山の存在を、建て混んだまちなかでふと思いださせる。人々のまちに対する認識に新たな発見をもたらすのだ。これは、風景デザインの立派な手法である。(佐々木)



仲之町1丁目の大崎山のポケットパーク(7号)。市民に最も親しまれている大崎山の緑を93㎡の敷地に移植した。山の頂上から水が出る石が設置されている。



旭町1丁目の中浦のポケットパーク。「里山の宝探し」をテーマに、旧下田村の小川と人里を現した円舞台をたどりながらシンボルツリーのエゴノキにたどりつけるデザインとした。



ベンチへの和釘の打ち込み。伊勢神宮の遷宮にも用いられている三条伝統の和釘を地場の杉材でつくったベンチ座面に打ち込んで仕上げた。



里山歩き。園芸組合や樹木医などの専門家とともに里山を歩き、里山の地形や植生を学ぶ。植栽計画後に里山から植物を移植する。

「景観教育・普及啓発部門」

受賞団体一覧

「大賞」(国土交通大臣賞)

活動名	所在地	応募者
歴史や文化を活かしたまちづくりと工業高校の建築教育支援	福井県 南越地区 (越前市、越前町、南越前町、池田町)	・(社)福井県建築士会南越支部

「優秀賞」(財団法人 都市づくりパブリックデザインセンター理事長賞)

活動名	所在地	応募者
札幌市 子ども向け都市景観・都市計画普及啓発活動	北海道札幌市	・札幌市
<small>こすど</small> 小須戸の町並みから学ぶ取組 ～小・中学校と住民団体の連携を生かして～	新潟県新潟市	・新潟市立小須戸小学校 ・新潟市立小須戸中学校 ・小須戸町並み景観まちづくり研究会
<small>いくのこうざん</small> 生野鉱山と鉱山都市の歴史景観を活かした町並みまちづくり	兵庫県朝来市	・口銀谷の町並みをつくる会

「大賞」(国土交通大臣賞)

- 所在地：福井県 南越地区（越前市、越前町、南越前町、池田町）
- 活動名：歴史や文化を活かしたまちづくりと工業高校の建築教育支援
- 応募者：(社)福井県建築士会南越支部

■活動の概要：

南越地区には、越前市を中心として、多くの伝統的建物等が混在した魅力ある独自の都市空間が数多く残されている。一方、高齢化や人口減少が進み、地域活力の低下も著しく、伝統的建物の維持が困難になっている。(社)福井県建築士会南越支部は、平成10年以降、歴史的建物の保存・活用や町並み整備に向けた活動やまちなかでの暮らしや行事に対する理解を深め、まちづくりに繋げる活動等を主体として、多くの団体と共同で「歴史や文化を活かしたまちづくり」の推進に取り組んでいる。その一環として平成20年からは、将来のまちづくりを担う地元の建築士を育てる必要性を感じ、工業高校の建築学科の生徒を対象として、町家改修に関する出前授業、木造住宅の見学会、既存町家の改修設計、「地域の暮らし」提案等の支援活動を行っている。

本活動は、工業高校、大学、市民活動団体、行政等、多くの団体といろいろな形で協力し活動することが特徴であり、建築教育やまちづくりへの効果が顕れている。なお平成23年度、本活動が評価され福井県建築士会は越前市より景観整備機構の指定を受けている。

■審査講評：

越前市(旧武生市)の町割りには現在でも300年前とほとんど変わりなく、多くの魅力的な路地と共に町屋、長屋、蔵、寺社が保存され、個性ある都市空間を形成している。しかし、人口の減少や高齢化によって、貴重な歴史的資源も次第に維持することが難しい状況になっている。そこで、福井県建築士会南越支部は、平成10年度より5年間をかけて市街地の建物3970棟を対象に、市民や学生を含めた多くの団体の協力によって「まちなみ調査」を実施した。これをきっかけに古地図等のデータ整理、市民対象に「古地図散歩」の実施、また町家での改修をテーマにしたコンペ「親子で楽しむ家」の実践、同コンペ入賞者による工業高校での授業等、継続的に地域景観の魅力を各種団体と協力しながら多くの市民に伝えてきた。さらに、工業高校の生徒達の「現場を見たい!」という反応から、建築士会は「山、木材、住宅を見よう、知ろう!」という現場見学会を実践すると共に、町家改修の設計製図や建築甲子園への参加支援等を行っている。この工業高校生との双方向性、対話性は、景観教育における極めて先駆的な取り組みである。この15年におよぶ一連の景観教育・普及啓発活動は、都市景観大賞として高く評価できるものである。(卯月)



町家の改修設計を行うために町や町家を見学している様子。

「優秀賞」(財団法人 都市づくりパブリックデザインセンター理事長賞)

- 所在地：北海道札幌市
- 活動名：札幌市 子ども向け都市景観・都市計画普及啓発活動
- 応募者：札幌市

■活動の概要：

札幌市は、平成10年に都市景観条例を定めて以降、各種景観施策を展開している。近年は、地域に目を向けた普及啓発活動にも力を入れ、小学生児童を対象に都市景観や都市計画について、楽しみながら学ぶことで、将来、まちづくりへ参加するための契機となる様々な活動を実施している。

具体的には、平成18年度に、楽しみながら学べる子ども向け都市計画普及本「ミニまち(さっぽろのまちがわかる小さな本)」を作成している。また平成19年度からは、将来のまちづくりを担う子どもたちに、景観やまちづくりの仕組みについて、より深く理解してもらうために、市役所屋上などから札幌のまちを眺め、都市イメージの形成につなげていく「まちなみ案内」や、土地利用のルールやまち・地域の様子を学び、模型を使ったまちづくり体験を行う「ミニまち講座」、まち歩きの中で地域の魅力を発見し、マップにまとめ発信していく「まちなみ魅力発見プログラム」等を実施している。これらの活動には多数の子どもたちが参加しており、札幌や地域への興味・愛着を育むことにつながっている。



【まちなみ魅力発見プログラム】地域で見つけてきた魅力的な景観をまとめ、発表している様子。

■審査講評：

平成16年度に都市計画部内に「都市計画制度普及プロジェクト」を設置し、一般市民向けの都市計画の啓発本「まち本」を発行して都市計画の啓発に努め、さらに子ども向けパイロット事業を開始。子ども向け都市計画普及本「ミニまち」作成し、市内の全学校に配布し、H19年度からは授業と連携し、子どもたちへ市役所屋上や高層ビル展望室からの「まちなみ案内」、小学校3年生の授業へ出前講座「ミニまち講座」、模型を使つての「まちづくり体験」の実施など、土地利用のルール、美しいまちなみ、周辺との関係性への気づきと理解など、本質的な啓蒙活動といえる。普及本の「ミニまち」は、大人でも理解困難な都市計画についてキャラクターを利用することによって子どもたちのまちづくりへの興味を引き出している。模型を土地利用図上に配置していく「まちづくり体験」では都市計画部内の担当者の模型づくりなどの努力により、ミニまち講座の実施回数が増え、若い職員や担当者の研修の場にもなっている。さらに平成23年度から始まった児童館での「まちなみ魅力発見プログラム」は、市内に100館近くある児童館やまちづくりセンター(約90カ所)との連携により一般市民への啓蒙へ、地域で子どもと大人が相互に学び合う関係に広がる可能性大である。今後、教員への研修を重ね、小学校3年生だけでなく5~6年生、中・高校生にまで啓発活動が発展していくことを期待したい。(小澤)

- 所在地：新潟県新潟市
- 活動名：小須戸の町並みから学ぶ取組
～小・中学校と住民団体の連携を生かして～
- 応募者：新潟市立小須戸小学校／新潟市立小須戸中学校／
小須戸町並み景観まちづくり研究会

■活動の概要：

新潟市小須戸本町通り周辺は、江戸期より信濃川舟運の中継点、物流拠点として栄えた地域であり、町屋の町並みや板塀の続く小路、長屋等の在郷町としての繁栄ぶりを伝える歴史的景観が多数残っている。

平成19年度に歴史的景観を活かした地域活性化を目指した「小須戸町並み景観まちづくり研究会」の活動が始まり、まち歩きの定期開催や空き店舗改修による活動拠点整備、住民ガイド養成、住民による町並み景観整備の勉強会等に取り組んでいる。さらに平成21年度より、小学校や中学校との協力体制を築き「町屋」を中心とした地域学習のための「まち歩きマップ」「ガイド養成テキスト」提供や、地域学習の講師等のサポートを行っている。このような地域学習の取組は、小学生から中学生へと受け継がれ、学習成果の充実が図られるとともに、その成果が積極的に発信されることで、住民全体の地域への誇りや愛着の醸成につながり、商店街の景観整備の動き等が生まれている。また、子供たちにも次世代を担う地域の一員としての自覚が芽生え、地域貢献活動に積極的に関わっている。



町屋の特徴、町屋での生活の様子などについて、住民から説明を受ける中学生の様子。

■審査講評：

自分たちのまちの「よさ」に気づくための活動から地域を知ること、地域に愛着を持ち、活性化と景観の向上を目指した活動である。町並みを「暮らしながら残す」ために、規制の多い指定を受けるのではなく、市独自の助成制度の活用で景観を保持しながら、暮らしやすいように改善してゆく方法を模索している点等は、他の地域への参考になると思われる。小・中学校の活動から、児童・生徒の発信力を生かし、保護者をはじめとする地域住民があらためて価値に気づいていく成果も見られる。そして、それらの活動を通して、小・中学校の連携が完成するなど、異校種連携にも見るべきところがある。現時点で「景観教育・普及啓発部門」の内容としては、十分に評価できるが、成果に関しては、活動の継続など今後の応募団体の活動如何に懸かっている。さらに、行政との関係を構築することで、数年後「都市空間部門」に応募できるまでになれば、景観の再生と活性化を、地域の力で推し進めたモデルケースとして、活動の完成を見ることができであろう。(大道)

■所在地：兵庫県朝来市

■活動名：生野鉱山と鉱山都市の歴史景観を活かした町並みまちづくり

■応募者：口銀谷の町並みをつくる会

■活動の概要：

「口銀谷の町並みをつくる会」は、平成11年に生野鉱山で栄えた鉱山独特の都市景観が残る口銀谷地区において、景観の保存活用や地域の活性化などを目的に設立された。

その後12年間にわたって「景観まちづくりシンポジウム」開催や情報紙「いぶし銀」の発行など様々な活動を展開している。

当初は関心が低かった景観に関する住民意識も、行政との連携による積極的な普及啓発事業を展開し続けてきた結果、次第に高まりを見せはじめ「生野まちづくり工房」の再生等の取り組みへと発展している。また「銀谷祭り」など鉱山独特の景観を活かして活性化につなげる取り組みやイベント等を育むことで、地域住民によるおもてなしのまちづくりも進んでいる。さらに子どもたちへ向けた写真コンテストや地域の歴史や文化を学ぶこども教室の開催などの活動展開によって、小中学校の写生大会などで町並み景観を取り上げて描く児童生徒が増加する等、地域住民の中に自分たちのまちに対する誇りと愛着が育まれるようになり、町並みを散策する観光交流人口も増加するなど大きな成果を上げている。



和服を着てのおもてなし。おもてなし人養成講座の成果を披露している様子。

■審査講評：

生野には中世以来の鉱山都市の文化の蓄積と景観資源が受け継がれている。活動主体である「口銀谷の町並みをつくる会」は大所帯ではないが、身の丈に合った活動を継続的に行い、まちの歴史文化の良い面を丁寧に読み解き、無理なく引き出している印象を受けた。行政による空間整備ともうまく連携し、効果的に住民意識が高まっている印象を受けた。

旧家を再生したまちづくり工房「井筒屋」では、豆まき、雛祭り、七夕、月見など年6回の年中行事が行われ、いつも何かの準備をしている雰囲気が伝わってくる。雛祭りには雛人形は150軒もの家で公開され、七夕には神戸から来た学生が浴衣を着て町なかを歩き回るといふ。鉱山会社の通勤族を受け入れてきた歴史からか、外部の人を受け入れることに抵抗がないようである。

まちづくりの担い手が固定化することはどこでも共通の悩みである。生野では地域サポーター制度「生野ひいきの会」により、生野にゆかりある町内外の個人・法人から資金面でのサポートを得、支援者のネットワークを形成している点も、まちづくりの裾野を広げるものとして評価できる。(福井)

平成24年度 都市景観大賞

「都市空間部門」、「景観教育・普及啓発部門」について

I. 都市空間部門について

1. 表彰目的

都市景観大賞「都市空間部門」は、良好な都市景観を生み出す優れた事例を選定し、その実現に貢献した関係者を顕彰し、広く一般に公開することにより、より良い都市景観の形成を目指すものです。

2. 表彰内容

- ① 大賞（国土交通大臣賞） …… 1～2地区
- ② 優秀賞 …… 数地区
- ③ 特別賞 …… 内容に応じ、適宜選定

3. 対象地区の要件

本賞は、街路・公園や公開空地等の公共的空間とその周りの宅地・建物等が一体となって良質で優れた都市景観が形成され、それを市民が十分に活用することによって、地域の活性化が図られている地区を対象とします。単独の公共施設、建築物、構造物は対象になりません。

4. 応募者の資格

良質で優れた都市景観の実現に深く寄与した地方公共団体、まちづくり組織、市民団体、民間企業・コンサルタント、独立行政法人、公社等とします。

※多くの関係者による共同応募が望ましいですが、単独でも応募者になれます。

5. 審査

「都市景観の日」実行委員会内に設置される都市景観大賞審査委員会において、応募図書等をもとに、内容を審査（書類選考、現地視察）した上で、表彰地区を選定します。

6. 審査委員

委員長	陣内 秀信	法政大学教授
委員	池邊このみ	千葉大学教授
	卯月 盛夫	早稲田大学教授
	岸井 隆幸	日本大学教授
	佐々木 葉	早稲田大学教授
	高見 公雄	法政大学教授
	田中 一雄	GK デザイン機構代表取締役
	富田 泰行	トミタ・ライティングデザイン・オフィス代表取締役
	国土交通省	都市局公園緑地・景観課長
	国土交通省	都市局市街地整備課長
	国土交通省	住宅局市街地建築課長

（順不同、敬称略、平成24年5月現在）

II. 景観教育・普及啓発部門について

1. 表彰目的

都市景観大賞「景観教育・普及啓発部門」は、景観まちづくり学習などの良好な景観に関する意識啓発や知識の普及等を行っている優れた活動を選定・顕彰し、広く一般に公開することにより、より良い都市景観の形成を目指すものです。

2. 表彰内容

- ① 大賞（国土交通大臣賞） …… 1団体
- ② 優秀賞 …… 数団体

3. 応募対象

小中学校等における景観まちづくり学習の実施や、街歩きや景観に関するセミナーの開催や地域の景観に関する情報発信など、景観に関する教育、意識啓発、知識の普及等を地域に根差して行っており、その取り組みが地域の人々の景観への意識・関心の高揚につながっている優れた活動を対象とします。

4. 応募者の資格

- ・景観教育や景観まちづくりに関する意識啓発を行っている、学校、まちづくり組織、市民団体、これらの団体を支援している地方公共団体など
- ・地域に根差した活動で、3年以上継続して実施している団体

5. 審査

「都市景観の日」実行委員会内に設置される都市景観大賞審査委員会において、応募図書等をもとに、内容を審査（書類選考、ヒアリング）した上で、表彰団体を選定します。

6. 審査委員

委員長	小澤紀美子	東京学芸大学名誉教授
委員	卯月 盛夫	早稲田大学教授
	大道 博敏	江戸川区平井西小学校主幹
	福井 恒明	法政大学准教授
	国土交通省	都市局公園緑地・景観課長

（順不同、敬称略、平成24年5月現在）

■主催：「都市景観の日」実行委員会

（公財）都市計画協会、（一社）日本公園緑地協会、（独）都市再生機構、（財）民間都市開発推進機構、（公社）日本都市計画学会、（一財）都市みらい推進機構、（公社）街づくり区画整理協会、（一社）日本屋外広告業団体連合会、（財）都市づくりパブリックデザインセンター、全国景観会議、都市景観形成推進協議会、歴史的景観都市連絡協議会、全国街路事業促進協議会

■後援：国土交通省

■協賛団体：

（一財）都市文化振興財団、（一財）計量計画研究所、（財）区画整理促進機構、（社）日本交通計画協会、（社）再開発コーディネーター協会、（一社）日本造園建設業協会、（一財）公園財団、（一社）ランドスケープコンサルタンツ協会、（公社）日本下水道協会、（財）自転車駐車場整備センター、（公社）立体駐車場工業会、全国土地区画整理事業推進協議会、都市再開発促進協議会

■事務局：（財）都市づくりパブリックデザインセンター

〒112-0013 東京都文京区音羽 2-2-2 アペニュー音羽 206 号 TEL 03-69122-0799 URL <http://www.udc.or.jp>